

# 昔を振り返りこれからにつなげよう

## 気候変動についての学習会(第1回)

4月19日 2時~4時 国立女性教育会館 研修棟 206

スーパーで食料品を買うと、「国産」という表示が目につくようになりました。それでも、食料自給率は39%です。海外での格安の賃金と生産費という国際的格差構造のうえに乗り、すぐ近くの畑ではなく、地球の裏側から大量の石油を使って運ばれる野菜や肉類が消費され続けています。

いま、世界の海で珊瑚が死に絶えつつあります。温暖化の影響で海水の温度が上がり珊瑚と共生する藻の一種が珊瑚のなかには住めなくなったからです。珊瑚が絶えれば、珊瑚に依存していた世界の水産資源の4割が失われると言います。互いに連なっている生態系がいま、気候変動の影響で崩壊しつつあります。

気候変動対策の一つとして炭素税という考え方があり、環境省の提案では年間排出量1tC(=12/44tCO<sub>2</sub>)に対して2,400円という数字が出されています。例えばCO<sub>2</sub>排出量が格段に大きい産業のひとつである電力産業の排出量は2006年度には3億6500万tCO<sub>2</sub>だったので、炭素税は約2,400億円になります。いまのところ、炭素税は産業活動を低下させるなどの理由で実現しそうにありません。しかし、これでよいのでしょうか？

いま必要なのは新しいビジョンです。費用計算に環境への負荷をも入れるべき時代です。これまでの大量消費、大量廃棄という仕組みを続ければ、これからの世代に未来はありません。CO<sub>2</sub>だけでなく、すべての排出物は環境収容能力を超えない範囲に止めることが出来るような経済、社会構造を目指すことが必要ではないでしょうか。ただ便利で見かけ上豊かならよいという考え方を改め、未来の世代のことを考える方向に変えるときです。そのためには、一度立ち止まり、これまでの道筋について見直すことが必要だと思います。4月19日には、嵐山でこれまで長く農業に取り組んでこられた方にもご参加いただける予定です。私たちの足下のことから捉え返し、衣食住や町作りのことにも目を向けて、気候変動のことについて、考えや情報を交換し合う機会を持ちたいと思います。是非、ご参加下さい。

主催:嵐山町 大気と水と大地の会 / 連絡先: 弥永健一 電話: 090-8024-7151